

事案名	小樽市の事案（北海道1 - 5）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・証言〔1〕</li> <li>・『毒ガス戦関係資料』1997年〔2〕</li> <li>・『厚別弾薬庫 開設10周年記念誌』昭和38年2月1日〔3〕</li> <li>・『読売新聞』平成15年9月2日〔4〕</li> <li>・『北海道新聞』『毎日新聞』平成15年9月3日〔5〕</li> <li>・『朝日新聞』平成15年9月4日〔6〕</li> </ul>
資料内容概要	<p>北海道小樽市は戦争末期に毒ガス弾等の集積地となっていた。終戦時、北海道陸軍兵器補給廠が保有していた毒ガス弾等は、米軍進駐までに、旧軍により小樽湾に海洋投棄及び北海道留萌市内の廃坑に埋設し、爆破処理された。</p> <p><b>生産・保有情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・元陸軍兵器補給廠厚別常駐班の曹長の証言として、「終戦時、厚別弾薬庫（札幌市）及び小樽出張所（小樽市）に毒ガス兵器が存在していた」と記載されている〔1〕。</li> <li>・資料によれば、昭和19年1月29日の「大陸指第千八百二十二号」とこれに基づく「化学戦準備要綱」で報復的毒ガス戦の準備として小樽に地上ガス弾薬0.9師団分とガス爆弾1,500発を同年2月末までに集積するよう指示したと記載されている〔2〕。</li> </ul> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時に、厚別弾薬庫では9月17日の米軍進駐迄に終戦処理が行われ、「貨車7輦分に及ぶ大量の催涙ガス弾は小樽沖と留萌沖において海中処分を図った」が、小樽沖では、浮いて沈まない缶を沈ませようとしていたところ、缶が発火して全体に着火し、作業をしていた見習士官数名が死亡したと記載されている〔3〕。</li> <li>・元陸軍兵器補給廠厚別常駐班の曹長による証言によると、小樽湾に「あか筒」を海洋投棄した。この作業で死亡したのは6名であったと記載されている〔1〕。</li> <li>・新聞記事によれば、北海道が元陸軍関係者から、札幌市内の爆薬庫に「くしゃみ弾」が貨車7輦分あり、「そのうちの5輦分を留萌市内の廃坑に埋めて爆破し、2輦分は小樽市内の祝津港沖に投棄した」の証言を得ている〔4〕〔5〕〔6〕。</li> </ul>